

## 扁桃炎，副鼻腔炎におけるアジスロマイシンとセフカペンピボキシルの臨床効果の検討（抄録）

小 関 晶 嗣 鈴 木 元 彦 村 上 信 五

名古屋市立大学耳鼻咽喉科学教室

宮 本 直 哉

愛知厚生連加茂病院耳鼻咽喉科

### 目 的

アジスロマイシン（AZM）は優れた抗菌力と組織移行性により，1日1回3日間のための服薬で耳鼻咽喉科領域感染症に対し高い臨床効果が期待されている．はたしてこのAZM3日間投与の効果は，経口セフェム7日間投与と比べてどの程度優劣があるのか検証してみた．

### 方 法

成人の扁桃炎または副鼻腔炎患者（急性及び慢性の急性増悪）に対し，AZMを1日1回500mg，3日間経口投与，またはセフカペンピボキシル（CFPN-PI）を1日3回300mg，7日間経口投与し臨床効果を比較した．

### 結 果

71症例で効果判定（扁桃腺32例，副鼻腔炎39例）を行った．扁桃炎では，AZM群は93.3%，CFPN-PI群では88.2%の有効率，副鼻腔炎では，AZM群で88.0%，CFPN-PI群では85.7%の有効率であった．

### 結 論

扁桃炎，副鼻腔炎におけるエンピリック治療において，AZM3日間投与はCFPN-PI7日間投与と同等の臨床効果が得られ，また1日1回の服薬で済み，高い服薬コンプライアンスが得られるため，耳鼻科領域感染症の治療薬として適切であると考えられた．